

財団 広報

2016 No. 6

心豊かで夢を持ち、郷土を愛する人を育てる



ー表紙写真ー

遠野グローバルプラザで行われた青少年ふるさと発見探偵団の第2回活動で、団員は各国の伝統民族衣装を身につけ、世界平和をイメージした「ハートマーク」を手で作って撮影しました。【関連記事 P5】

特集

遠野市・チャタヌーガ市交流物語『絆』・・・2-3

- ◆平成28年度の予算と計画・・・・・・・・・・・・・・4
- ◆とびくす・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- ◆世界で活躍する遠野人 インフォメーション・・・・・・6

26年間の思いを 遠野市・チャタヌーガ市交流物語



国際化に対応する人材育成

遠野市の中高中生海外派遣交流事業は、「ふるさと創生基金制度」により、人材育成のための海外交流が盛んになり始め、平成元年に県立遠野高校及び遠野緑峰高校が協力して海外交流の素案を作成し市に陳情したことが発端です。平成2年にチャタヌーガ市にあるCSAS校と姉妹校提携し、翌年から高校生の海外派遣がスタートしました。平成12年には中学生の派遣事業も開始し、これまでの交流人数は引率等も含めて540名。ホストファミリーの数を含めるとその人数はさらに膨らみます。26年もの長い時間をかけて遠野とチャタヌーガはゆるぎない友情を育んできました。

遠野市へ姉妹都市望む親書

昨年7月、チャタヌーガ市のアンディー・バーク市長から、姉妹都市提携を望む親書が遠野市へ寄せられました。



本田敏秋市長から歓迎を受けるパーカー・アレン氏



出発（1997/ 高校）
⑤初の中学校派遣生
⑨CSAS 校正門前で記念撮影（2016/ 中学）



①チャタヌーガ高校生初来遠（1991）
②テネシー州知事表敬訪問（1993/ 高校）
③ウォルナットストリート橋にて（1995/ 高校）
④チャタヌーガへいざ（1999）
⑥同時多発テロ事件を乗り越え交流再開（2002/ 中学）
⑦ランチタイムで団らん（2004/ 中学）
⑧現地で多くの友情が育まれた（2010/ 中学）

高校生海外派遣交流事業の復活

平成21年度以降中断となっていた高校生の派遣事業について、今年度からの再開を目指し、市内高校関係者及び受け入れ先のチャタヌーガ関係者と、期間や条件等について再三協議を重ねてきました。結果、この程合意が整い、事業を再開することになりました。改めて関係者のご尽力とご協力に感謝申し上げます。

この事業は、異文化の理解や国際交流への関心を高め、グローバルな視野と感性を醸成するとともに、現地の先進的な企業や農業研修等により、生徒が具体的な将来像について広い視野で考える機会とすることを目的として実施します。

8月に選考を行い、事前研修を経て、市内両校の高校生4名を来年1月6日から18日まで13日間の日程で派遣します。

チャタヌーガ市表敬訪問団を募集

当財団では、チャタヌーガ市との更なる交流を深める目的で市民ツアーを現在計画中で、平成29年1月に1週間の予定で考えていますが、詳細及び募集については、決定次第改めてお知らせします。

また、今年4月には、チャタヌーガ市特別渉外担当のパーカー・アレン氏が本田敏秋遠野市長を表敬訪問し歓迎を受けました。

今秋の「遠野まつり」には、チャタヌーガ市友好訪問団が来遠することになっています。今後は財団も一層協力し、市民交流の機会を増やしていきます。

年 月	内 容
平成2年5月	遠野高・緑峰高 CSAS 校と姉妹校締結
平成2年10月	事前視察団3名を現地に派遣
平成3年3月	CSAS 校へ高校生の派遣を開始
平成3年6月	CSAS 校の高校生受入開始
平成10年3月	中学生派遣事前調査団4名を派遣（1回目）
平成11年1月	中学生派遣事前調査団4名を派遣（2回目）
平成12年1月	中学生の派遣開始（CSAS 校、CSLA 校） ※以降同時多発テロ発生年を除き派遣継続
平成15年1月	一般公募の市民交流団11名を派遣

▲中高生海外派遣交流事業の概要



ーチャタヌーガ市の概要ー

テネシー州東部に位置する人口約17万人の自然豊かな都市。1960年代、大気汚染の影響で多くの工場が閉鎖され、浮浪者が続出し治安状況が悪化した。現在は公害対策で電気バスが市内を巡回し、車両の製造や輸出も手掛けている。観光産業では、世界最大級の淡水魚水族館や他州まで一望できる「ルックアウトマウンテン」などがあり観光客が年々増加している。

交流が築き上げた『揺るぎない友情』

1990年に遠野市の佐藤一男氏と菊池啓氏が高校の姉妹校模索のためチャタヌーガのCSAS校を訪問してからというもの、遠野と遠野の人々が好きになりました。初めての遠野訪問は1998年の高校生派遣の時、遠野に行きたいという私の夢がかなった瞬間でした。「I love Tono」と書かれたネックレスを滞在中身に付けました。遠野、岩手がそれぞれなんと素晴らしい土地であるか気づかされました。美しさ、歴史、物語、そして最も素晴らしいのは人々です。その後さらに3回遠野を訪問できたことは幸運でした。遠野は私の第二の故郷になりました。最後の2001年の訪問後、遠野とチャタヌーガの姉妹都市提携に向け私は動き出しました。両市の関係は未来にとってとても重要であると感じていました。



▲生徒の交流をサポートするルイーザさん

26年間にわたり遠野とCSAS校の交流に携わってきて、遠野とチャタヌーガは姉妹都市になるべきであると感じ続けており、長年の夢でした。CSAS校が将来また生徒を遠野に派遣することを望みます。彼らが遠野を訪れ、深く、持続する遠野への愛を持つ機会を得ることはとてもありがたいことであります。

Interview



CSAS 校 元教諭
ルイーザ・メシッチ さん

オール遠野でインバウンド対策

今年度から市から新たに受託した、遠野市外国人観光客おもてなし推進事業のキックオフセミナー「明日からできるインバウンド対策！<いわての 10 手>使い方講座」が4月26日に開催され、観光関係者約70名が参加しました。講師は、ブランド戦略の専門家、希望郷いわて文化大使の村尾隆介氏。村尾氏の外国人観光客おもてなしのノウハウや具体例などに参加者は熱心に耳を傾けていました。ラグビーワールドカップや東京オリンピックなどで、今後増加が予想される外国人観光客をどのようにして遠野に訪れさせるか、「オール遠野」の取り組みが必要となってきます。



①講師からのお題に参加者同士が考える場面も②実体験を元にアイディアを提示する村尾氏③参加者から多くの質問が出された

大切なものは...

青少年劇場は舞台芸術の鑑賞機会として、市内小学4年生から6年生を対象に毎年実施しています。今回の演目は『演技集団 朗』による「約束～大切なもの～」。個性豊かな登場人物たちを通し、友達や家族との守るべき大切なものを描いたストーリーです。

子どもたちは登場人物のセリフや動きに笑ったり泣いたり、演劇を楽しみました。公演終了後の感想発表では、荻野成輝君（上郷小6年）が「友情と約束の大切さについて学んだ。これからも全国の子どもたちに素晴らしい演劇を見せてほしい」と述べ、出演者は笑顔を浮かべていました。



①コミカルな演技に会場は大爆笑②感想を発表する荻野成輝君（上郷小）③田代陽菜さん（上郷小）から出演者に花束が贈られた

世界のあれこれ大発見！！

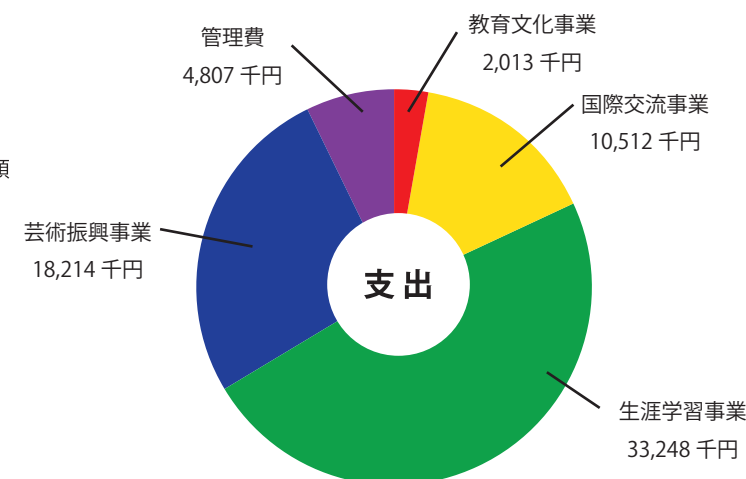
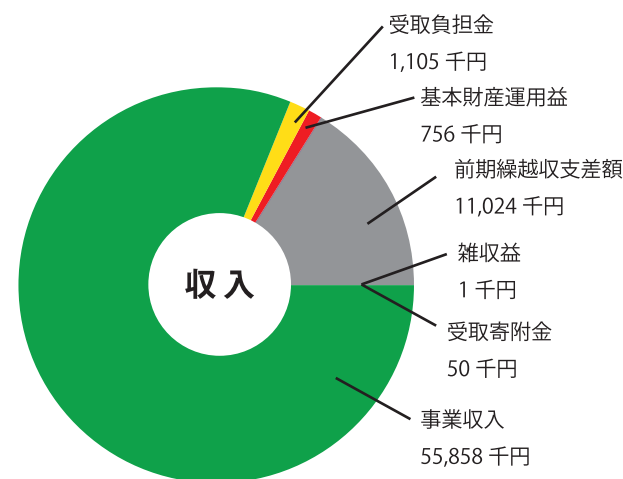
市内小学4年生から6年生までを対象とした少年少女ふるさと発見探偵団の第2回目活動は、旧上郷中学校内に昨年8月オープンした「遠野グローバルプラザ」を訪問しました。

同施設内の体験型展示を通じ、世界各国の文化や学校に行けない発展途上国の子どもたちの現状などについて学びました。また、普段は体験できない色鮮やかな各国の伝統民族衣装も試着しました。公益社団法人青年海外協力協会遠野事務所の松本祥氏に講師を務めていただいた、「ウガンダ講座」では、現地の食生活やダンス、日本の学校との違いなどの講話に団員たちは興味津々。国際理解の感覚を培う活動になりました。



①うーん、何に使う道具かな？②外国のゲームでいざ勝負！③外国の食生活の違いに驚く団員たち

平成28年度の予算（68,794千円）と重点事業



平成28年度主な事業（予定含む）

7月	美川憲一スペシャルコンサート [31日 / 市民センター大ホール]
10月	第11回遠野市民芸術祭合同茶会 [23日 / 市民センター] 舞台合同発表会・総合展示会・菊花展 [29日～30日 / 市民センターほか]
11月	遠野少年少女合唱隊第27回発表会 [13日 / あえりあ遠野中ホール] 遠野市民センター バレエスタジオ第39回発表会 [20日 / 市民センター大ホール]
1月	中高生海外派遣交流事業 [上旬 / 米・チャタヌーガ市] チャタヌーガ市民交流ツアー [上旬 / 米・チャタヌーガ市]
2月	第43回顕賞式 [18日 / あえりあ遠野中ホール] 第42回遠野物語ファンタジー [25日～26日 / 市民センター大ホール]

国際交流事業を充実強化

今年度は、アメリカ・チャタヌーガ市と遠野市が姉妹都市締結に向けて動き出すことから、市民ツアーや来遠訪問団歓迎費用、チャタヌーガ市出身者を国際化推進支援員として招へいする予算などを計上しました。また、平成21年度から途絶えていたチャタヌーガ市への高校生派遣事業についても、今年度から再開します。

さらに、遠野市から新たに受託した「インバウンド推進事業」（600千円）では、市内の観光施設

市民センターリニューアル 芸術振興事業を充実

遠野市民センターが5月29日にリニューアルオープンし、新しい施設で様々なイベントが行われます。当財団では、市や関係団体と密に連携し、市民センター自主事業（7月）、市民芸術祭（10月）及び遠野物語ファンタジー（2月）など、芸術振興の更なる充実を図り、様々な事業に取り組みます。

理事長就任のあいさつ

及川 増徳



去る5月27日に開催された、遠野市教育文化振興財団第2回理事会において、理事長に互選されました及川増徳です。この数年、遠野市教育文化振興財団の様々な改革改善に積極的に関わり、推進してきた前理事長の角田幸四郎氏の後を引き継いで理事長就任に責任の重さを痛感しています。微力ではありますが、遠野市教育文化振興財団の活動目的である、遠野の教育文化の振興と国際交流の推進、さらには遠野市の受託事業の誠実な履行に、一層の成果を求めて努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

